

文化センター周辺の宅地造成への町の負担は適正か



月田 均



町長

人口減少対策の先行投資と考えるに至った

質問 宅地造成のための町の費用負担、5億6000万円について、1月の町長選挙時の後援会資料の中には宅地造成失敗と記載されている。町長はこの件をどのように考えるか。

また、造成地の中に公共施設用地（駐車場、公民館建設等のための用地）が不足と考えるが、公共施設用地の追加確保は可能か。

答弁 町長 この事業により道路、公園、上下水道、調整池も整備され、居住環境が整った住宅地として整備するものであり、人口減少対策の先行投資と考えるに至った。

答弁 都市建設課長 公共施設用地を広げることについては、今まで計画に沿って進めてきた事業であり、現在造成工事に入っている。また、既に売却済みのため難しいと考える。

カーブミラーの改善を

質問 交通安全のために、町中にカーブミラーが多く設置されているが、劣化し、映像を確認しにくくなっているものが多い。鮮明な映像が長期間保たれる強化ガラス製のミラーに変更できないか。藤岡市、桐生市、東京都等で採用され、よい結果が出ている。



強化ガラス製(左)とアクリル製(右)のカーブミラーの比較(ともに昭和時に設置)

答弁 生活環境安全課長 カーブミラー1枚で5000円ほど価格が上昇するが、耐久性が2倍以上向上し、映像もクリアなため採用したい。また、既設のミラーについても、状況に応じて今後ガラス製に変更していく。

屋外広告物規制の進捗状況は

質問 屋外広告物規制に向けた計画は。また、規制の条例ができるまでの伊勢崎土木事務所への対応は。

答弁 町長 今後2年間で景観計画を策定し、景観条例案の作成に着手する。その後屋外広告物規制の検討となる。違反が見受けられる屋外広告物については伊勢崎土木事務所が現地調査、違反屋外広告物の立地状況の確認を実施することになるので、今後も連絡を取り合っていく。

町のPRを積極的に

質問 道路交通網に恵まれ、平らな地形、比較的地震が少ない町をPRするためには、視覚で訴えるプロモーションビデオを作成し、若者の定住促進の一環とすべきではないか。

答弁 町長 「麦秋の郷」などのプロモーションビデオを活用した情報発信は、町の魅力をPRできると認識しているので、検討したい。

時代にそぐわなくなった古い事業の見直しは



備前島久仁子



町長

必要性、緊急性、効果を検討し、優先順位をつけ選択していく

質問 町の経常収支比率が97%になろうとしている現在、どのように古い事業を見直していくのか。

答弁 町長 効果の低い事業や、時代の変化に伴い役割が終了したと考えられる事業の精査をする。必要性、緊急性、効果を検討し、優先順位をつけ選択していく。

滝川周辺の環境美化と遊歩道の整備を

質問 滝川と管理道路、用水路には雑草が生え、大きなごみが散乱していることがある。管理は伊勢崎土木事務所と町が行っているが、定期的な見回りをして、環境美化に努められないか。

答弁 町長 草刈りの回数が少ないので繁茂してしまいが、管理をしっかりとってきた。用水路は町の管理なので、大きなごみが投棄されている場合は、その都度回収する。管理



遊歩道の設置を



「麦秋の郷」で町をPR